



令和4年3月

座談会御書

妙一尼御前御消息

* * 地区



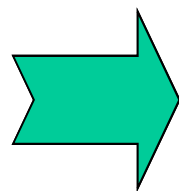
背景と大意

- ・建治元年 54歳御作 在身延
- ・対告衆：妙一尼（在鎌倉）
- ・夫は所領没収の難の後に逝去
- ・冬は必ず春となる事を確信
- ・夫の成仏は間違いないと断言



冬のごとし

法華經を信ずる
人は**冬のごとし**



・苦難はある
・宿命の転換

「苦難の冬」こそ**転換点**
大聖人も**大難**に遭う御一生

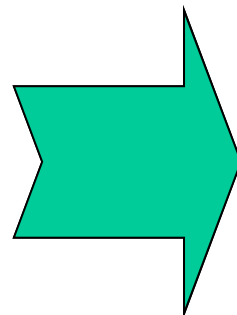
難を乗り越える**強き信心**で
宿命の転換を勝ち取れ



必ず春となる

冬を乗り越え**勝利の春**が必ず来る

揺らぐことなき
絶対の信心



永遠の**幸福**
への軌道

苦難は願い求めた**使命**の舞台



無一不成仏

方便品の文証
一人として**成仏**せざること無けん

- 法華經を信じる人は**必ず成仏**
- 夫の**成仏**を確信し、**前進**せよ

大確信で尼を激励指導



指導から

- **宿命転換**の戦いがある初めて「**春**」を到来させることができる
- **試練の冬**を避けてはならない
- 誰もが**胸中に仏の生命**を持っている。成仏できないわけがない。

**鍛錬の冬に挑戦し
春爛漫の大境涯を拓こう**